

| 2022 vol.04 |

NADOLIVE

ナドリーブ

開院以来39年の歴史を背負い、
脳神経外科は一步前へ



Contents

[特集] 脳卒中センター／診療科紹介／関連施設のご紹介《回生の里》／
生き生き輝く委員会／FACE／information／Live well, Live long／部署紹介



脳卒中センターの最大の強みは 「手術の絶対的な技術力」と 「最高のチーム医療体制」



脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）を発症すると、身体機能や言語機能に障害が残ったり、死に至る場合もあるため、関係部署がしっかりと連携し、患者さんに寄り添い、総力戦で診療にあたるのが非常に重要となります。名戸ヶ谷病院脳神経外科では、東葛地区で最大規模の脳卒中診療体制を有し、地域の皆さんに安心して暮らしていただけるよう、「これ以上ない」と自負できるシステムを整えています。

それが、2021年に開設した「脳卒中センター」です。ここでは、救急搬送から入院、治療、リハビリテーション、そして退院後のケアまでを支える主な部署とその役割についてご紹介します。



2 放射線科

優れた設備と検査技師が
診断に最適な画像を提供する

脳卒中診療におけるCT検査に求められるものは「スピード」と「情報量」です。当院には、これらを両立させることが可能な設備が整備されています。2管球搭載型のCT装置は、その高速性を活かし、頭蓋内のみならず、頸部から心臓までの広範囲の情報を少ない造影剤量で得ることを可能にしています。また、搭載されているデュアルエネルギー解析は、血管内治療直後における頭蓋内の造影剤と出血の鑑別に用いられています。撮影後には、脳血流の灌流解析と、血管の形態解析を異なる2種類の医用画像処理ソフトを併用することで、それぞれの長所を最大限に活かし、診断に最適な画像をスピーディーに提供することができます。



1 救急外来

迅速性と正確性で
患者さんを最善の診療につなぐ

柏市に限定することなく広域から患者さんを受け入れています。迅速かつ適切な対応で、脳卒中が及ぼす影響を最小限にとどめつつ、患者さんが最善の診療を受けられるよう、援助および看護を行う場所です。脳卒中は時間との勝負。救急車による搬送、速やかな画像診断、それを踏まえての適切な治療ブースへの連携を最短時間で行うことが、私たちの役割です。



8 地域連携室

地域の社会資源を活用し、
患者さんの暮らしを支える

医療、保健、福祉、行政機関との連携を積極的に行い、地域の社会資源を有効活用することで、患者さんに安心して生活していただける環境の構築に努めています。脳卒中センターにおいては、脳卒中ホットラインの運用や、救急患者の受け入れに関する消防署との連携・情報提供、市民や地域医療機関に向けた脳卒中セミナーの開催といった形で関わっています。また、当院で治療した後も、安心して地域の医療機関をご利用いただけるよう、病病・病診連携の強化を目的とした活動にも注力しています。

7 回復期リハビリ病棟

リハビリ中の患者さんに
寄り添い、在宅復帰・
社会復帰を共に目指す

急性期の治療後に障害を抱えた患者さんが、機能障害を改善し、日常生活動作を少しでも元に近い状態に戻せるよう、集中的なリハビリテーションを実施しています。医師やセラピスト、看護師やソーシャルワーカーなどが多職種で連携しながら、患者さんとご家族の皆さんがより良い形で在宅復帰・社会復帰を実現するための橋渡しの役割を担っています。また、日々のリハビリやケアの中で患者さんが抱える戸惑いや不安、苛立ちといった感情にも寄り添いつつ、患者さんが主体的にリハビリに取り組めるよう、患者さんの心を動かすことも当病棟スタッフの重要な役割です。

6 リハビリテーション科

失われた機能の回復を促し、
残存能力を最大限引き伸ばす

リハビリテーション科では、医師を中心に理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が協働し、超早期よりリハビリテーションを開始します。この目的は、適切な治療的アプローチをすることで脳の可塑性（ダメージを受けた脳が、集中的なリハビリによって回復に向け変化すること）を促し、最大限の機能回復と生活の質の向上をもたらすことです。「失われた機能の回復を促し、残存能力を最大限引き伸ばす」。これをモットーにリハビリテーション科はチーム一丸となり取り組んでいます。



5 外来

臨機応変な医療を提供し、
患者さんの思いも尊重する

外来の主な役割は、患者さんの症状を把握し、それに応じた臨機応変な医療と看護を提供することです。加えて、医師への報告や多職種間で情報を共有し、必要な検査や診療・手術等の医療を患者さんにスムーズに受けもらえるようサポートすることも、外来の大切な役割です。脳卒中診療においては、急性期状態の患者さんが緊急入院・緊急手術になることも少なくありません。不安を抱える患者さんとそのご家族の思いを尊重しながら、退院後も外来診療という形で継続的にチーム医療に加わります。

4 ICU

状態変化にいち早く
気づき、患者さんの
苦痛や不安を緩和する

脳卒中発症後、手術や血管内治療等を行った患者さんの多くが入室する場所です。苦痛や不安を抱える患者さんにご家族に寄り添いながら、患者さんの状態変化にいち早く気づけるよう常に側で観察しています。多職種と連携し、身体面・精神面・社会面の負担が最小限となるよう、患者さんにご家族の立場に立った看護ができるよう努めています。



3 手術室

365日24時間、
絶対的な技術力で手術に対応

脳卒中は1分1秒を争う病態です。時間的なロス可能な限り減らすため、365日24時間いつでも手術可能な体制をとっています。すべてのスタッフが質の高い技術で安全に手術が行えるよう、感染管理をはじめとしたあらゆることに細心の注意を払い、診療医師、麻酔科医、看護師、コメディカルなどの他職種と協働し、チーム医療を行っています。



老人保健施設『回生の里』



回生の里は、かつてホテルの里とも呼ばれ、法人（蛍水会）の名前の由来ともなった名戸ヶ谷湧水地区の隣に平成14年9月に誕生した今年で20年を迎える介護老人保健施設です。

回生の里の名前の由来は、年齢や病気が原因で失われたと思われる機能を、介護、リハビリ、医療を通じて蘇らせ、その方の人生にホテル程度の光でも再度光が当たるように、また、回生の里の新しいロゴマークにもさせていただいた螺旋状に周りを良い渦に巻き込みながらのぼっていけるようにという願いを込めてつけられました。

開設当初より、入所サービス、短期入所サービス、通所サービス、訪問介護サービス、居宅支援事業所を通じて病院を退院された方が在宅復

帰を目指す施設として、また在宅の要介護者が在宅での生活を続けられるよう支援する施設としてまた、突然の家族の病気などの出来事に困っている方の支援のためにと力を注いできました。

昨年、20年を迎えるにあたって「行かなきゃいけない場所から行きたい場所へ」というコンセプトのもと老朽化した箇所の工事と、お風呂やホールの内装工事を行いました。

1Fデイのお風呂はかつての銭湯のような雰囲気、4Fはレストランに来ているような雰囲気に、リハビリルームもマシーンやプロジェクター等を配備しトレーニングジムに来ているような雰囲気にと変貌を遂げたと思います。

今年は、休止中の訪問介護サービ

スの再開と、新規事業の訪問リハビリを開設し、ご利用者、職員、年齢、国籍、性別、障害の有無関係なくまたご家族や近隣のかた含め、回生の里にかかわるすべての方が良い渦に巻き込まれて、わくわくできるような施設を目指していきたいと思っています。



浴室

介護老人保健施設 回生の里

〒277-0032
柏市名戸ヶ谷929-1 TEL 04-7166-7171

アクセス

■電車とバスの場合

JR常磐線 東武アーバンライン(野田線) 柏駅東口。5番バス乗り場 東武バス 名戸ヶ谷車庫行に乗車し、終点の名戸ヶ谷車庫でお降りください。道路を挟んだ斜向かいが「回生の里」になります。

■自動車の場合

県道51号線、柏駅と増尾駅の間付近です。約50台の無料駐車スペースを確保しております。



エントランスホール



デイルーム

人間ドック



多項目にわたる詳細な検査と豊富なオプションで病気の芽を早期発見

人間ドックを受診する目的は、早期発見から早期治療へということですが、「元気があった人がある日突然倒れた。」なんて話を聞いたことがあるかもしれません。いかにも健康そうでも、意外と見えない病気が潜んでいることもあります。医療には「予防医学」と「治療医学」がありますが、人間ドックは「予防医学」です。糖尿病や高血圧、高脂血症などの生活習慣病は、かなり進行しないと自覚症状がでません。がんも、何年もかかって進行するケースも多いのです。これらの病気も早期にその芽を見つけて治療を始めれば、治癒させることも期待できます。人間ドックは、その病気をいち早く発見できることが期待されます。健康診断と人間ドックの違いですが、会社や事業所に勤めている人は労働安全衛生法に基づいて年に1回定期健康診断が義務付けられています。主婦や自営業の方には高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて自治体等が主催する健康診断を受けることができます。これらの健診は内容が限られていますので、体全体をチェックするには限界があります。そこで人間ドックが勧められます。



人間ドック健診専門医

岩村 晃

められます。ある程度進行しないと自覚症状が現れない病気もあり、特にがんは自覚症状が現れた段階では治療が極めて困難なことも多いです。人間ドックは日本人間ドック学会の方針に基づき詳しい検査を多項目にわたり行い、多くの病気の早期発見に効果があります。また、すでに疾病の治療を受けている人も、病状の経過を見たり今後の治療方針を決めたり合併症を発症していないかもわかることもあります。健診で異常がない人でも、人間ドックで異常が見つかることもあります。ちなみに「ドック」は一般的には船を点検・修理するためにドック(dock)に由来すると言われています。船が長い航海のあと点検・修理のためにドックに入るように、人間も定期的にドックに入る必要がある、という考えから生まれた言葉と思われます。これまで受けたことのない人も、ぜひ人間ドックを受診していただければと思います。

Live well, Live long

この「Live well Live long (健康で長生き)」コーナーでは、
毎回専門職の方から健康で長生きするためのコツと知恵を
レクチャーしてもらいます♪

BMI (適正体重)のお話

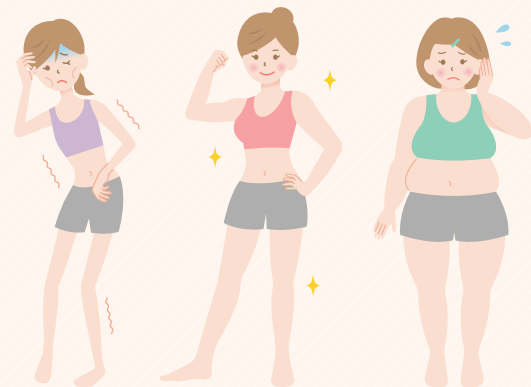
BMI (Body Mass Index) はボディマス指数と呼ばれ、体重と身長から算出される肥満度を表す体格指数です。
子供には別の指数が存在しますが、成人ではBMIが国際的な指標として用いられています。
健康を維持するためには日頃からBMIを把握することが重要です。

計算式 ●BMI = 体重kg ÷ (身長m)² ●適正体重 = (身長m)² × 22

▶ BMI=22が適正体重 (標準体重) = もっとも病気になりにくい体重

●成人の場合

日本肥満学会の判定基準	
BMI値	判定
18.5未満	低体重 (痩せ型)
18.5~25未満	普通体重
25~30未満	肥満 (1度)
30~35未満	肥満 (2度)
35~40未満	肥満 (3度)
40以上	肥満 (4度)



適正体重日本肥満学会

肥満だと、糖尿病、高血圧、脂質異常などの生活習慣病にかかるリスクが高まり、**痩せ**は栄養不良、慢性進行性疾患などが生じることがあります。
皆さんも**普段から体重計に乗る習慣**をつけましょう！

部署紹介-電話交換

私たち電話交換は、4名で毎日の交換業務を行っています。一般の患者さんや近隣クリニック等からの問い合わせや消防からの救急受け入れ要請など内容は多岐にわたっています。

他院からの問い合わせや救急要請等は、素早く正確に該当する先生や診療科のスタッフに伝達しています。患者さんからの問い合わせで気を付けていることは、受診の相談や症状の変化の際に、緊急性はあるのか、診療科はどの科がよいのかなどを判断するために相手の話をよく聞き相手の変化に気づけるようにしている点です。

判断のつかないものに関しては外来の看護師や救急担当医に指示を仰いで対応しています。内容によっては早めの来院をお勧めしたり、時には救急要請を促したりしています。

電話という顔の見えないツールであるからこそ、相手の話に耳を傾けて言葉になっていない想いもくみ取れるように気を配り、丁寧な対応に努めています。



生 生 き き

輝く 委員会



骨粗鬆症リエゾンサービス (OLS) 委員会

当院ではこれまでよりも積極的に骨粗鬆症治療に取り組むため、2020年7月にOLS委員会を立ち上げ骨折の治療のみならず骨粗鬆症の治療にも力を入れています。委員会活動により、当院の骨粗鬆症薬物治療率は年々向上し、全身を対象とした薬物治療率は、欧米と遜色ないレベルに達しています。骨粗鬆症による骨折予防を推進するため、服薬、運動、栄養指導など、各職種が専門性を発揮しそれぞれのフィールドで活躍すると同時に、委員会にて情報を共有し連携しながら骨粗鬆症患者の治療に当たっています。取り組みの一部を紹介します。



◆看護師

骨折入院患者全例に骨粗鬆症のリスク評価を行い、薬物治療の対象患者を抽出。患者背景などの問診を行い、転倒リスクの高い患者には安全な療養環境の提供に努めます。



◆管理栄養士

食事時間に訪問を行うことで摂取量の確認と個別対応の必要を検討。退院後も継続可能なように骨折予防パンフレットを用いて、患者が取り入れやすいメニューを提案しています。



◆放射線技師

最大の役割は「骨密度を正確に測定すること」です。これは治療の「要否」決定はもちろん、治療の効果を把握するうえでも非常に重要だからです。検査時間は10分程度と短いですが、少しでも治療に対するモチベーションにつながるようなお声がけができるように努めています。

【薬剤師、リハビリテーション科も活躍中。またの機会にお伝えします!】

F A C E

医療現場を支える仲間たち



ドクターエイド 医師事務作業補助者

総合病院などの大規模な病院では医師の事務作業が多く存在します。彼らは医師事務作業補助者という資格を持ち、日々の診療のサポートをしています。当院では「ドクターエイド」と呼ばれており、現在11名のエイドが活躍しています。医師の指示を受けて、文書作成や検査オーダー、処方、カルテ代行入力などを行なっています。外来で医師の隣に座って入力したり、入院患者さんの回診に同行したりと、医師が診療行為を円滑に行うために欠かせない存在です。

information

当院脳卒中センターは**柏レイソル**と**スポンサー契約**を結びました。

次号、柏レイソル **大谷秀和選手**との対談企画、決定!

脳卒中予防には早期発見、早期治療が重要です。本番で最高のパフォーマンスを発揮するために日頃から体調管理に気を付けているプロアスリート。一流選手の行う健康管理とは? 乞うご期待!





理念

私たちは全人的医療を目指します

いつでも患者さんの立場に立って医療を行います

先進技術を導入し、適切な医療を実施するように努力します

救急医療を中心に予防医学にも力を注ぎ、医療のあらゆる分野に全力を尽くします

〔基本方針〕

- 1 患者さんの権利を尊重し、患者さんの信頼と満足が得られるような医療を行うように努めます
- 2 救急医療、急性期医療を当院の使命と考え、救急患者さんは小児から高齢者まですべて受け入れます
- 3 予防医学から在宅医療、高齢者福祉・介護まで、地域に密着した包括的医療を目指します
- 4 地域医療機関や施設との機能分担や連携を図り、救急病院としての機能と責務を果たすよう努力します
- 5 高度な医療と安らげる環境を提供するために、職員の教育と研修に努めます

Access



- **電車の場合**
東武アーバンパークライン（野田線）新柏駅より徒歩約7分
- **電車とバスの場合**
JR柏駅東口 5番バス乗り場 東武バス 新柏駅行に乗車し、新柏住宅でお降りください。新柏住宅の裏が名戸ヶ谷病院になります。
- **無料巡回バスも運行しています**
ルート内であれば、乗り降りは自由な場所で行っていただけます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

社会医療法人社団蛍水会 名戸ヶ谷病院

〒277-0084 千葉県柏市新柏2-1-1

TEL.04-7167-8336 (代表)

<http://www.nadogaya.com>

